

七つボタンの多機能マウス

JJ1SXA/池

私のように、何時まで経ってもパソコン初心者の域を脱し切れない者と違い、パソコン使いのベテランは、パソコンに付随する大半のマウスはおまけレベルで、握り難いし、機能も最低限、キーボードも打ち心地はお世辞にも良いとは言えないとの評価だ。

そして、ベテランからのお薦めだ、多機能マウスの使用で作業効率アップと疲れの軽減を目指そうとの事だ。

マウスの接続方式には有線と無線があるが、邪魔なケーブルが無い無線方式がお薦めでしょう。

注目は、複数のボタンを備えた多機能モデル、「進む」、「戻る」などさまざまな機能を追加のボタンに割り当てて、作業効率をアップできる。

ロジクール製の M590 MULTI-DEVICE SILENT (実売価格¥3,900) は、ブルートゥースと 2.4GHz 帯の 2 方式の無線に対応している。

ボタンは 7 つある、余談だが、♪～七つボタンは桜に錨～♪は、西条八十・作詞、古関裕而・作曲の予科練(海軍飛行予科練習生)の歌だ、若かりし頃(幼かりし頃か?)無謀にも、後何年経ったら志願できると憧れたことを思い出す、余談をもう少し続けると、予科練の教育は、飛行機の操縦教育・学科以外に一般体育の他、海軍だからカッターは当然、柔剣道、相撲等があり、手旗信号やモールス通信など内容は多彩だったようだ。

本題に戻ると、7 つあるボタンの内 5 つのカスタマイズが可能、アプリごとにボタンに割り当てる機能を変えられるのだ、例えば、左前ボタンを押してクロームのウィンドウを閉じたり、ホイールボタンを左右に倒してエクセルのシートを切り替えたりと自由自在だ。

ロジクール製のマウスは設定アプリ「Logicool Options」でボタンに機能を割り当てる、右上のメニューから「アプリケーション固有の設定」をオンにすると、アプリごとに各ボタンの機能を割り当て可能になる。

キーボードのキーの構造は、「メンブレン方式」、「パンタグラフ方式」、「メカニカル方式」、「静電容量無接点方式」の 4 種類があり、打ち心地がそれぞれ異なる。

一般的なパソコンは、メンブレンかパンタグラフ、対してメカニカルと静電容量無接点はしっかりした打鍵感が魅力との事、特にメカニカルは、スイッチの製造メーカーは幾つかあり、種類も豊富、実際に店舗でキーを打って違いを体感するのも良いでしょうとのこと、キー配列は、主要なキーを網羅する「109」配列だ。

ウィンドウズで主流のキーボードが、この「109 キーボード」、テンキーやファンクションキーが省略されていないため、一般的にフルキーボードと呼ぶ、日本語入力に必要な「変換」、「無変換」、「カタカナ/ひらがな」キーを備えるのが特徴だ、「弘法筆を選ばず」との格言もあり、素人だから、立派な道具は必要無いとの意見もあるが、素人だからこそ多機能の道具を使い、それを使いこなせば、スキルはアップするのだ！！